

平成30年度

事業報告書

自 平成30年4月 1日

至 平成31年3月31日

特定非営利活動法人 あゆみ福祉会

I 法人概要

1. 概要
2. 沿革

II 基本理念

1. 基本理念
2. 職員行動指針

III 事業報告

1. 共同生活援助事業部
2. 児童発達・放課後等デイサービス事業部
3. 生活介護事業所部
4. 居宅介護事業部
5. 相談支援事業部

参考資料

1. 運営組織図

I 法人概要

1. 概要

全体職員数 81名

① 総務部 代表理事 1名
事務長 1名
事務員 3名

② 障害者共同生活援助事業部
管理者 1名
サービス管理責任者(兼任) 2名
支援員 28名

③ 児童発達・放課後等デイサービス事業部
管理者 2名
児童発達支援管理者 2名
指導員 18名
看護師 3名
ドライバー 7名

④ 生活介護事業所部
管理者 1名
サービス管理責任者 1名
支援員 6名

⑤ 居宅介護事業部
管理者 1名
サービス提供責任者(兼任) 2名
支援員 6名

⑥ 相談支援事業部
管理者(兼任) 1名
相談員 1名

2. 沿革

001年	4月	埼玉県鶴ヶ島市に生活ホームとして使用する物件を借りる
	6月	鶴ヶ島市に障害者生活ホームの申請を提出、認可を受け事業開始
	9月	埼玉県にNPO法人の申請書を提出
2002年	1月	埼玉県よりNPO法人の認証を受け登記完了する
	4月	鶴ヶ島市に2ヶ所目の生活ホームの申請を提出、認可を受け事業開始
2003年	4月	障害者支援費制度の施行に伴い、埼玉県に障害者居宅介護事業所申請を提出、認可を受け事業開始
2005年	10月	1ヶ所目の生活ホームを坂戸市へ移転と同時に国の事業である知的障害者グループホーム事業へ指定申請、認可を受け事業を開始する
2006年	4月	法人内の事業部門を分社化し、新たに居宅介護部門だけを別法人化する坂戸市のグループホームを知的障害者ケアホームへ変更
	9月	2ヶ所目の生活ホームを鶴ヶ島市内へ移転と同時に定員を7名へ変更同時に国の事業である知的障害者グループホーム事業へ指定申請
2007年	4月	鶴ヶ島市の生活ホームが知的障害者グループホーム事業として認可を受ける
	9月	あゆみ福祉会ホームページ開設
2008年	4月	鶴ヶ島市のグループホームをケアホームへ変更 鶴ヶ島市2ヶ所目のケアホーム「第二つつじホーム」の申請書を県庁に提出
	6月	「第二つつじホーム」の改修工事着工
	7月	県へケアホーム指定申請書作成提出。「第二つつじホーム」の改修工事終了
	8月	ケアホーム「第二つつじホーム」開所
2009年	5月	体験入居事業開始
2010年	4月	ケアホーム「やまぶきホーム」開所
2011年	4月	埼玉県より居宅介護事業所の認可を受ける 移動支援事業認可を受ける（さいたま市・川口市・新座市・川越市・坂戸市・鶴ヶ島市・日高市・毛呂山町・滑川町）
2012年	4月	第三つつじホーム開所
	12月	指定特定相談支援事業所「あゆみ福祉会つるがしま相談支援センター」開所
2013年	4月	ありがとホーム開所
2014年	7月	障害児通所支援事業所「あゆみ」開所
2016年	8月	障害児通所支援事業所「なかよし」
		生活介護事業所「あおぞら」開所

II 基本理念

1. 【基本理念】

1. 心身に障害をもつ方に対して支援を提供することを通じて「地域福祉の向上に寄与する」
2. 福祉サービスに携わる支援者は、障害のある方に対し「徹底した人権擁護と、質の高い支援」を提供する。
3. 障害者支援のプロフェッショナルとして「高い倫理観と専門的知識」を身につけ、支援を提供する。

2. 【職員行動指針】

1. 私たちは誠意をもって人に接し、誰の話にも耳を傾けます。
2. 私たちは安心安全で、その人らしい生活ができる環境へ改善し続けます。
3. 私たちは、ご利用者の個性を大切にし、安心して過ごせる場所を提供します。
4. 私たちは、ご利用者の笑顔、楽しい気持ちを増やす支援をします。

Ⅲ 事業報告

法人全体として

- ・業務改善委員会（平成29年度から継続）

法人事業体制の脆弱さを改善し、抜本的な改革・改善が必要と考え客観的な立場から評価・検証を行い経営・運営に関わる改革・改善への取組みを確実なものとするため、理事会の諮問機関として平成29年12月22日に第1回委員会を開催し、平成30年度も継続して委員会を開催した。

計6回に及ぶ熱心な議論が行われ、平成31年3月末日で委員会は終了した。平成31年4月に、諮問に対する答申が業務改善委員会委員長から法人代表理事宛に提出された。

法人は、答申を真摯に受けとめ翌年度からの経営・運営に活かしていく。

- ・法人内研修

埼玉県介護労働安定センターに依頼し、計5回の研修を実施した。

5月25日（金）18時-20時 身体拘束虐待

6月22日（金）18時-20時 メンタルヘルス ストレスマネジメント

11月20日（火）12時-14時 利用者の暴言、暴力からくるメンタル面の緩和

1月21日（月）18時30分-20時30分 介護施設のマネジメント

3月5日（火）10時-12時 介護における伝える力

- ・ストレスチェック

職員のメンタルヘルス対策として毎年実施している。

平成30年度は、5月21日から6月30日の期間内で実施した。

検査結果で、高ストレスと判定された者は、希望により産業医との面談を実施している。

- ・「経営会議」の定期開催

法人における経営に特化した会議として、顧問税理士・法人理事による定期的な開催を実施。年度当初の予算案にもとづき毎月の収支を詳細にチェック。実績の振り返りと年度末までの収支予測。収益が減少した場合はその原因把握と改善策の検討。融資の検討などを行った。

- ・クレド

法人における理念は全体としての方向性を指すが、それぞれの事業部門においては、目的・対象者など異なることも多い。

そこで事業部毎門に行動指針を作成し、ミーティングで検討を重ね日々心がけることなど、より現実的で具体的な文言により事業部門に相応しいクレドを完成した。

事業部の目につきやすい場所に掲示したり、ホームページにアップしている。

- ・給与等級表の見直し

従来から定期的に直属の上司。理事を交え面談を実施し、それをもとに評価し給料へ反映してきたが、さらに人事考課規程及び給料等級表を作成した。経験年数、有資格、勤務成績などを公平、客観的に観察し、適正な評価をすることを目的とした。

実際には、評価の点で見直し改善を図るべきことも多く、具体的な運用は次年度へ持ち越す。

- ・「多様な働き方実践企業ゴールド認定」「シニア活躍推進宣言企業認定」

女性に配慮し育児・介護休暇取得や残業の縮減。女性管理職を多く任命。有給休暇の取得奨励。フレックス勤務の導入など、仕事と子育ての両立を支援する取り組みをしている事業所へ対し「多様な働き方実践企業ゴールド認定」として埼玉県から認定をいただいた。

また、定年制の廃止。シニアが働きやすい職場環境づくりなどを進めているなどの実践をしている事業所に対し「シニア活躍推進宣言企業認定」として埼玉県から認定をいただいた。

上記2つの認定事業所としてPRするため、ホームページ。求人広告。名刺などにロゴマークを使用している。

今後も広く世間へ周知を図っていき事業所のPR。雇用の促進へ推進していく。

- ・実務者研修受講

「介護福祉士」の受検に向け、実務者研修の受講が義務付けられた。

法人として設けている「資格取得支援制度」にもとづき職員の職務能力向上及び自己啓発の促進を目的として、業務の時間内・費用負担なしで実務者研修の受講を行った。

受講者は全員、1月に行われる介護福祉士の国家試験を受験することになる。

- ・ 互助会主催の交流会

初めての催しである「互助会主催の職員交流会」を11月3日に外部の会場（アルカーサル迎賓館川越）で実施した。

夜間に実施したため、夜勤者など一部の職員は参加が出来なかったが約8割の職員が参加し、豪華な会場とビュッフェスタイルの料理。ビンゴゲームで笑顔もあり、また永年勤続者表彰も行った。

普段は業務の都合で顔を合わせられない事業部の職員にも会え、和気藹々とした雰囲気のまま終了した。

参加した職員及び企画した互助会からも、是非定例化していきたいという意見が多く聞かれた。

- ・ 常勤者会議開催

平成30年9月より隔月で契約・常勤職員対象で会議を開始した。

従来は管理者会議・各事業部のミーティングだけが会議形態であった。

が、契約・常勤職員が20名になり、普段は別々の事業部で顔を合わせる機会もないことと、理事・管理者が同席し法人の動向や各事業部での取り組み内容を確認し、ディスカッション形式で事業部の枠を超え、語り合う機会をつくりたい目的もある。

- ・ 健康診断受診

法定検診であり年に1回、健康診断を実施している。

夜勤宿直業務のグループホーム部門では勤務者全員、年に2回実施している。

- ・ 永年勤続者表彰（勤続10年）

勤続10年の職員に対し、法人としてお祝い品を贈呈し表彰した。

出来るだけ大勢の前で、という思いから互助会主催の職員交流会の席上で表彰した。

今後も、10年勤続者は続出するので、感謝の思いを込めた企画とお祝い品を検討していく。

- ・ 法人内理事の選任

平成30年12月。あゆみ福祉会総会において「外部理事2名の辞任。法人内より3名の理事が就任」が承認された。

これにより法人内の理事4名（代表理事含む）での体制が開始された。

・アドバイザーの選任

理事会の構成人員が法人内だけの偏りを防ぐことと、外部の方の考えやアドバイスを心得て活性化させていくため、業務改善委員の2名にアドバイザー就任を依頼し、快諾していただいた。

アドバイザーには理事会。経営会議。管理者会議の参加。理事からの個別相談など多方面の参画を依頼した。

理事会における課題に対して明確な指示をくださり、管理者とも会話を通し、気づきを促したり、物事に対する広い視野と多面的な見方の必要性を学ばせていただいた。

新年度も継続し依頼していく。

・介護プリセプター委員会

職員定着。離職防止の取り組みとして平成30年11月に委員会を発足。

一定期間、先輩職員が新規入職者に対しマンツーマンで実践的な実務の習得とメンタルケアを含めて行う。

これにより、中途採用者であっても障害福祉に特化した教育指導が受けられ、新入職員の早期離職の防止と定着促進を図る方針である。

・イベント実行委員会

法人の存在を、すでに福祉サービスを利用いただいているご利用者ご家族様に限定することなく、地域住民の方々にも広く存在を知っていただき地域のお役にたてる法人であるために、法人内で委員会を立ち上げ定期的に話し合いを継続していく。

年度内は1回だけ委員会を開催したが、次年度も継続して開催していく。

・有給休暇取得の計画的付与と取得の奨励

職員にとって働きやすい職場環境を提供する一環として、契約・常勤職員だけでなく非常勤職員にも有給休暇の取得を奨励してきた。

次年度も継続して計画的付与と取得の奨励を行っていく。

1. 共同生活援助事業部

(1) 事業の目的

6ヶ所のグループホーム全ての入居者様が安全に安心して生活を維持できる。

また、生活の向上を目的として、より良い支援、サービスを提供する。巡回活動の取り組みを行い、利用者様が相談しやすい環境を提供する。体調や生活、日中活動等の心配や不安を取り除き笑顔で生活できるグループホームを目指す。

(2) 前年度の反省

- ・入居者様の楽しみであるイベント事の実施が1度のみとなってしまったこと。
- ・巡回活動が定着できず、不足した巡回活動となってしまった。
- ・事業所計画の取組みが弱く、意識統一を図れていなかったこと。

(3) 平成30年度活動報告

ア. 稼働率

グループホーム		平成30年4月	平成30年5月	平成30年6月	平成30年7月	平成30年8月	平成30年9月
つつじ(定員人)	利用者数(人)	210	217	210	217	217	210
	入院(日)	0	0	22	0	0	0
	外泊(日)	0	0	0	0	0	0
	実績(日)	210	217	188	217	217	210
	稼働率	100.0%	100.0%	89.5%	100.0%	100.0%	100.0%
第2つつじ(定員)	利用者数(人)	300	310	300	310	310	300
	入院(日)	0	0	0	0	0	0
	外泊(日)	58	73	61	53	60	62
	実績(日)	242	237	239	257	250	238
	稼働率	80.7%	76.5%	79.7%	82.9%	80.6%	79.3%
第3つつじ(定員)	利用者数(人)	210	217	210	217	217	210
	入院(日)	0	0	0	0	0	0
	外泊(日)	12	12	17	27	15	14
	実績(日)	198	205	193	190	202	196
	稼働率	94.3%	94.5%	91.9%	87.6%	93.1%	93.3%
さつき(定員)	利用者数(人)	270	279	270	279	279	270
	入院(日)	0	0	0	0	0	0
	外泊(日)	3	0	0	0	14	1
	実績(日)	267	279	270	279	265	269
	稼働率	98.9%	100.0%	100.0%	100.0%	95.0%	99.6%
やまぶき(定員)	利用者数(人)	270	279	270	279	279	270
	入院(日)	0	0	0	0	0	0
	外泊(日)	0	3	0	1	2	0
	実績(日)	270	276	270	278	277	270
	稼働率	100.0%	98.9%	100.0%	99.6%	99.3%	100.0%
ありがと(定員)	利用者数(人)	270	279	270	279	279	270
	入院(日)	0	0	0	0	0	0
	外泊(日)	12	17	14	14	16	18
	実績(日)	258	262	256	265	263	252
	稼働率	95.6%	93.9%	94.8%	95.0%	94.3%	93.3%

グループホーム		平成30年10月	平成30年11月	平成30年12月	平成31年1月	平成31年2月	平成31年3月
つつじ(定員人)	利用者数(人)	217	210	217	217	196	217
	入院(日)	0	0	0	23	28	27
	外泊(日)	0	4	0	1	0	0
	実績(日)	217	206	217	193	168	190
	稼働率	100.0%	98.1%	100.0%	88.9%	85.7%	87.6%
第2つつじ(定員)	利用者数(人)	310	300	310	310	280	310
	入院(日)	0	0	0	0	0	0
	外泊(日)	34	38	51	45	36	46
	実績(日)	276	262	259	265	244	264
	稼働率	89.0%	87.3%	83.5%	85.5%	87.1%	85.2%
第3つつじ(定員)	利用者数(人)	217	210	217	217	196	217
	入院(日)	6	0	1	0	0	0
	外泊(日)	8	9	15	10	6	12
	実績(日)	203	201	201	207	190	205
	稼働率	93.5%	95.7%	92.6%	95.4%	96.9%	94.5%
さつき(定員)	利用者数(人)	279	270	279	279	224	279
	入院(日)	0	0	0	0	0	0
	外泊(日)	0	3	12	8	0	2
	実績(日)	279	267	267	271	224	277
	稼働率	100.0%	98.9%	95.7%	97.1%	100.0%	99.3%
やまぶき(定員)	利用者数(人)	279	270	279	279	252	279
	入院(日)	0	0	0	0	0	0
	外泊(日)	0	0	7	2	1	0
	実績(日)	279	270	272	277	251	279
	稼働率	100.0%	100.0%	97.5%	99.3%	99.6%	100.0%
ありがと(定員)	利用者数(人)	279	270	279	279	252	279
	入院(日)	0	0	0	0	0	0
	外泊(日)	13	15	17	18	17	16
	実績(日)	266	255	262	261	235	263
	稼働率	95.3%	94.4%	93.9%	93.5%	93.3%	94.3%

2. 児童発達・放課後等デイサービス事業部

(1) 事業の目的

療育の必要な子供たちだけでなく、看護師を配置し医療的ケアが必要な子供たちに日中や放課後をのびのび過ごしてもらおう場と活動の提供

(2) 前年度の反省

受け入れ態勢の問題もあったが、定員10名を下回る日々があった。
様々な特性や年齢の児童を受け入れるにあつたての活動内容の検討や知識を深めるための研修を十分におこなうことができなかった。

障害児通所支援事業所あゆみ

【取り組み】

・長期休みのイベントの充実

昨年度の取り組みとして、長期休みのプログラムの充実を目標とした。
例年行っていた、夏野菜を使った昼食作り、流しそうめん、あゆみっこ祭りの他に、新たに BBQ や日高特別支援学校のプールを借りる等の試みを行い、どれも好評であった。

反省点として、日高のプールを借りるにあたり、予定を組む段取りに手間

取ってしまい、1日しか行えなかった事。夏野菜が思ったより育たなかった事等があった。

- 児童発達管理責任者受講
管理者松本が児童発達管理責任者の資格を受講した。
平成31年2月より変更を行っている。
- 強度行動障害研修受講
行動特性が強い利用者様が多くいる為、指導員2名が強度行動障害研修を受講した。資格を持った状態で現場配置の申請を出す事で加算がとれるが人手不足の為、保留である。
- 遠足の企画
昨年に引き続き、新たな場所を遠足の目的地とした（川の博物館、群馬サファリパーク）。両日とも大きなトラブルはなかったが、群馬サファリパークでは高速を使い、移動時間も長かったため、移動距離の見直し等、検討する必要が生じた。
- 多機能型事業所と合同会議を行う
両事業所での情報の共有が電話やメールのみだった事もあり、新たに合同会議という名目で情報の共有を図った。
まだ、頻度や会議の在り方など検討の余地がある為、引き続き修正を重ね行っていく。
- 児童請求ソフト、記録ツールの変更
従来使用していた「ほのぼのシステム」は高齢者施設に特化しており、使いづらいという声が多々あった。
その為、児童デイサービス事業に特化した「メイプル日誌」への切り替えを行った。
請求に関しては令和2年度末まで「ほのぼの」と併用し、徐々に切り替えを行う。
- リタリコ登録
障害のある方、もしくはその保護者によつての書き込みが多数であるネットワークサービスの「リタリコ」に求人広告を掲載した。
- 保護者アンケートの実施
昨年同様、保護者様による事業所評価を行った。
- ボランティアの受け入れ
法人職員の紹介により、週2日、ボランティアの受け入れを行っている。
また、今後のイベント等においてもボランティアの受け入れを行っていく。
- 昼食業者の変更並びに、給食スタイルへの検討

現在利用している「あじあい弁当」の値上げに伴い、他の昼食業者の検討を行っている。

給食スタイルにすることで温かいご飯が食べられる事や、当番の役割を持たせられる事ができるが、食後の食器洗いや寸胴を準備する等のコストがかかる事もあり、検討中である。

- ・ SNS の活用

Instagram を活用し、事業所の様子を保護者様や興味のある方に向けて発信している。個人情報が出る可能性がある為、載せる写真には細心の注意をはらっている。また、ネットに情報を出すことにより、障害者への偏見を無くすことや、施設の透明化を図っている。

- ・ 外部講師を招いての活動(美術、臨床美術、音楽療法)

多機能型事業所あゆみ なかよし

【取り組み】

- ・ 児童あゆみとの合同遠足（群馬サファリパーク）
- ・ 多機能児童での遠足(朝霞市 リックンランド)
- ・ 多機能生活介護との合同行事（夏祭り、クリスマス会）
- ・ 施設周辺の散策や県内の公園
（彩の森公園、智光山公園、平成の森公園）
- ・ 県内施設（鳩山町 J A X A、川越祭り会館、ピースミュージアム等）への外出活動
- ・ 外部講師を招いての活動(美術、臨床美術、音楽療法)
- ・ 保護者アンケート

(3) 平成30年度活動報告

ア. 稼働率

あゆみ児童10人定員	平成30年4月	平成30年5月	平成30年6月	平成30年7月	平成30年8月	平成30年9月
	稼働日数(日)	26	27	25	27	22
発達支援実績(人)	33	28	36	33	28	35
放課後実績(人)	212	226	219	220	188	207
1日あたりの利用人数	9.4	9.4	10.2	9.4	9.8	9.7
稼働率	94.2	94.1	102.0	93.7	98.2	96.8
あゆみ児童10人定員	平成30年10月	平成30年11月	平成30年12月	平成31年1月	平成31年2月	平成31年3月
	稼働日数(日)	27	25	24	24	24
発達支援実績(人)	42	39	37	38	39	32
放課後実績(人)	221	207	186	186	185	191
1日あたりの利用人数	9.7	9.8	9.3	9.3	9.3	8.6
稼働率	97.4	98.4	92.9	93.3	93.3	85.8

なかよし児童10人定員	平成30年4月	平成30年5月	平成30年6月	平成30年7月	平成30年8月	平成30年9月
	稼働日数(日)	25	27	26	26	22
発達支援実績(人)	20	24	25	19	20	21
放課後実績(人)	188	177	158	185	198	187
1日あたりの利用人数	8.3	7.4	7.0	7.8	9.9	8.3
稼働率	83.2	74.4	70.4	78.5	99.1	83.2
なかよし児童10人定員	平成30年10月	平成30年11月	平成30年12月	平成31年1月	平成31年2月	平成31年3月
	稼働日数(日)	27	25	24	24	24
発達支援実績(人)	21	21	12	21	22	17
放課後実績(人)	185	171	183	169	176	187
1日あたりの利用人数	7.6	7.7	8.1	7.9	8.3	7.8
稼働率	76.3	76.8	81.3	79.2	82.5	78.5

3. 生活介護事業所部

(1) 事業の目的

食事等の日常生活の支援を行うとともに生産活動や創造的活動の提供を行う。

(2) 前年度の反省

学校の卒業生2名を新たに迎えるにあたって学校との連携や受け入れ態勢を十分整える事が出来ずに通所を迎え、日々のミーティングを重ねる中で試行錯誤しながらの支援になってしまった。

事前に障害特性についてなどの研修を行っても良かったのではないかと思う。

(3) 平成30年度活動報告

【取り組み】

- ・ひな祭り、バレンタイン、節分等の季節に合わせた行事。
- ・多機能児童と合同での行事（夏祭り・クリスマス会）
- ・施設周辺の散策や県内の公園
（彩の森公園、智光山公園、平成の森公園等）への外出。
- ・初めての外食を実施。
- ・その他、活動の中で食事作りや、カラオケ、日々の活動について職員・利用者様合同の「あおぞらミーティング」を実施した。

ア. 稼働率

生活介護10人定員	平成30年4月	平成30年5月	平成30年6月	平成30年7月	平成30年8月	平成30年9月
	稼働日数(日)	21	23	21	22	20
利用実績(人)	150	164	153	158	139	142
1日あたりの利用人数	7	7	7	7	7	7
稼働率	71%	71%	73%	72%	70%	71%
生活介護10人定員	平成30年10月	平成30年11月	平成30年12月	平成31年1月	平成31年2月	平成31年3月
	稼働日数(日)	23	22	20	20	20
利用実績(人)	169	168	164	150	177	180
1日あたりの利用人数	7	8	8	8	9	9
稼働率	73%	76%	82%	75%	89%	86%

4. 居宅介護事業部

(1) 事業の目的

ヘルパーの支援を必要とする障害児（者）の居宅へ訪問し必要な支援を提供する。

(2) 前年度の反省

法人内のグループホームで生活する障害者の居宅へ訪問し身体介護。移動支援。通院等介助。等の支援を提供した。

在宅で生活する障害児（者）から支援の依頼があったが、ヘルパーの数にも限りがあることと、グループホーム利用者への支援で新規受け入れの余力がなく、お断りする状況が続いた。

本来、法人内のグループホームは包括型であり利用者への個別ヘルパーの訪問は暫定期間中で実施していることから、本来の居宅介護事業所のあり方に立ち返ると、今後は在宅で居宅介護を希望している一人でも多くの方へ支援を提供する必要性が求められる。

(3) 平成30年度活動報告

ア. 稼働率

居宅	平成30年4月	平成30年5月	平成30年6月	平成30年7月	平成30年8月	平成30年9月
	利用人数	28	30	31	32	31
居宅身体(時間)	383.5	425.5	429	447	455	415.5
居宅通院介助・身体あり(時間)	46.5	57	51	58.5	58	58.5
居宅通院介助・身体なし(時間)	15.5	16	20.5	26	28	15.5
居宅家事援助(時間)	23.5	27	23.5	26	25	20
移動支援(金額)	115,168	165,370	198,860	239,218	184,545	199,086
移動支援身体あり(川越市)(金額)	99,451	94,353	95,825	72,083	85,237	90,046
移動支援身体なし(川越市)(金額)	51,066	52,722	48,888	61,320	85,764	85,060
訪問介護						
居宅	平成30年10月	平成30年11月	平成30年12月	平成31年1月	平成31年2月	平成31年3月
	利用人数	30	33	32	29	32
居宅身体(時間)	476	455.5	427.5	426.5	406	450
居宅通院介助・身体あり(時間)	74	76.5	59.5	67.5	55	66.5
居宅通院介助・身体なし(時間)	26	21	21.5	14.5	22	12.5
居宅家事援助(時間)	24.5	22	23	23.5	21.5	21
移動支援(金額)	115,111	217,907	193,572	159,663	176,842	222,334
移動支援身体あり(川越市)(金額)	103,489	106,619	110,846	124,046	85,342	102,518
移動支援身体なし(川越市)(金額)	90,967	143,307	58,836	46,251	45,474	64,326
訪問介護						

社会参 加・余暇 活動に関 する支援	権利擁 護に関 する支 援	その 他	計					
1	1	0	568					
0	実人員	身体 障害	重症 心身 障害	知的障 害	精神 障害	発達 障害	高次 脳 機能 障害	その他
障害者	371	29	0	101	241	0	0	0
障害児	220	36	33	147	0	4	0	0
計	591	65	33	248	241	4	0	0

参考資料

1. 運営組織図

組織図

1. 従来は経験重視で専門的な知識を身につけずに支援をしてきたが、利用者数の増加や障害特性の多様化により、専門的な視点から支援に関わる。
2. 我々支援者は、障害のある人たちに対して徹底した人権擁護と、質の高い支援をしていくことが重要な役割。
3. 障害者支援のプロフェッショナルとして、高い倫理観と専門的知識や支援技術、支援を展開していくための知識等を身につけていく必要がある。



